
彼と彼

八久斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼と彼

【Nコード】

N8877E

【作者名】

八久斗

【あらすじ】

兵士と殺人犯の物語。読み方によって結末が変わるファンタジーホラーショートショート。

「……勝負あつたな」
短刀を突き付けた男が呟いた。
その声には、何の感情もこもってはいない。
ただただ、機械的な言動。

「……名を……聞こうか……」
突き付けられた側の男が呟いた。
その声には、微塵の怯えも悲しみも含まれてはいない。
諦観か達観か、男はじつと相手を見つめていた。

「……第4部隊隊員、キルト」
相手の命を握った男はそう言った。
彼はこの街の治安維持部隊の人間だった。
凶悪犯を討伐するのが、2年前に任せられた彼の仕事だった。

「……キルト、か……その名前、胸に刻んでおこう……」
命を握られた男はそう言った。
彼はこの町を震撼させている連続殺人犯だった。
毎日1人を殺すのが、2週間前から彼の仕事になっていた。

「……他に言い残すことはあるか……？」
路地裏での乱闘を制した男はそう訊いた。
被害者の中に、彼の知り合いは1人として存在しなかった。
だから、これは復讐でもなんでもなく、仕事の一環に過ぎなかった。

「……いや、何も」

追い込まれた男はそう答えた。

彼は今日、人を殺す現場を目撃された。

少々運が悪かったなと、彼は溜息をつき、ゆっくりと眼を瞑った。

小さな、低い、断末魔が、漏れた。

「……」

相手を切り殺した男は何も言わなかった。

刃先からは、血が滴り落ちていた。

衣服は返り血で真っ赤に染まっていた。

「……」

切り殺された男は何も言えなかった。

その目は、大きく見開かれていた。

衣服は自らの血で真っ赤に染まっていた。

生き残った男は死体を担ぎ上げた。

既に生きていない男の体は人目の付かないところへと運ばれていった。

翌日、男の死体が発見された。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8877e/>

彼と彼

2010年10月9日18時33分発行